

根来山げんきの森倶楽部

令和6年12月作業日誌

令和6年12月15日(日) 9:30~15:00 天気：雨あられ~晴れ 倶楽部員：42人

12月は冷え込み厳しい中、ベテラン勢の安定の技術と新メンバーの参加により順調に作業が進みました。

冷え切った体に、野菜がたっぷり入った滋味深い味わいのお味噌汁は格別だったことでしょう。

炭出し

本日は気温5度と冷え込み、寒さを感じながら10名での作業開始となりました。

午前中は主に炭出し作業、今年度最終の6回目の炭出し作業です。作業工程はいつもと同じく、窯内から炭を丁寧に出す作業→約10cmにカット・袋詰め→1袋10kg計量・保管の流れです。今回は10kg入り23袋、230kgの炭が出来上がります。

今回の炭窯「排煙口」の4日間における温度変化を参考までに概略記載します。

11/20(初日)14:00 56度、11/21(2日目)14:00 80度、11/22(3日目)14:00 95度、
11/23(4日目)AM10:00 260度(終了：通風口・排煙口全閉鎖)

通風口の温度が80度位まで上昇すると窯内で炭化が始まると聞いていますが、このところほぼ同ようなパターンで温度も上昇しており、判らないながらも順調ではと感じます。

午後からは炭材作り、以前伐採された分と本日軽トラック2台分の原木を炭材用にカットして保管場所へ運ぶ作業。及び、沢小屋へ下る道路の側溝掃除、U字溝の割れている部分に落ち葉等が大量に詰まっており、それらの撤去作業を行いました。

参加されたみなさま大変お疲れ様でした。(坂本 幸三)



歩道整備

めっきり寒くなり冬本番の12月に、入会間もなくで今回初めて定例活動に参加させて頂きました。

まず最初に各作業毎に、皆さんが分かれて行くわけですが、どの作業に就けばいいか迷っていたところ、何処からともなく「こっちへ来い」とラブコール頂き、そのまま歩道整備に参加させて頂くことになりました。 前回の道普請で、かけやの振り姿を買って頂いたものと勝手に思い込み、喜んで駐車場を出発しました。

作業は歩道の表土が雨水で流出した跡を修復することと、歩道脇の朽ちた横木を撤去して、新たに杭を打ち込んで横木を差し替える作業をメインに行いました。

テラーに作業用具と土嚢袋30袋余りを積み込んで、森の広場近くからふれあい回廊へと入って行きました。

樹木の根が露になっているところ、表土が流れて岩盤が剥き出しになっているところがあり、歩行者がつかずいたり、滑ってバランスを崩したら危険な箇所でもあります。大きな段差には土嚢を並べ平坦にしていき、剥き出した根には土嚢の土を覆い被せて、つかずか無いように整備しました。

初めての参加で気付いたのは、整備の仕方ひとつにおいても様々な方法が皆さんから持ち上がり、倶楽部員の方々がいかに山を愛しているのかを垣間見た気がしました。

(加地 建)



味噌汁作り

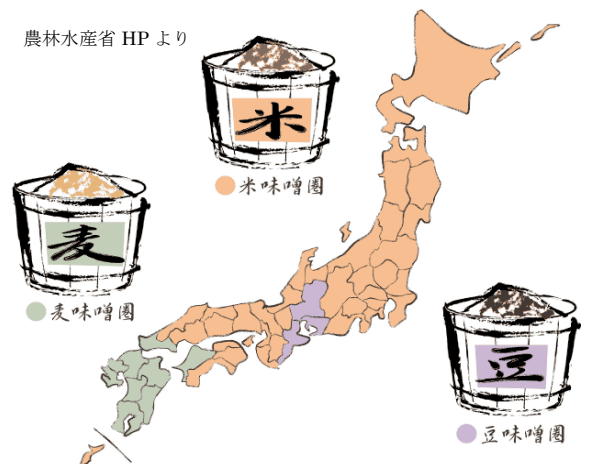
ベテラン2名フレッシュマン1名の3名で作りしました。今回は野菜が高騰していて、お味噌汁の具はさみしいものになるけど仕方ないか、と思っていたら、当日Sさんが白菜、大根、サトイモ、柚子をどっさり届けてくれたので具沢山お味噌汁ができました。

特筆すべきはいつも作りすぎてすごく余るのが上手にピッタリの分量で作れたことです。 (宮芝 真弓)

～味噌の起源と歴史～

- 飛鳥時代・・・中国から「醬（しょう/ひしお）」が伝来。
- 平安時代・・・「醬」熟成される前にできる「未醬（みしょう）」が転じて「みそ」と呼ばれるようになる。
- 鎌倉時代・・・すり鉢が使われだしたことにより、当時は粒状であった味噌をすりつぶして味噌汁の調理が始まった。
- 室町時代・・・大豆の生産量が増えたことにより、特権階級の調味料であった味噌が庶民に広まった。
- 戦国時代・・・有能な戦陣食として欠かせないものであった。
- 江戸時代・・・味噌汁は一般的な献立として日本人にとっては切っても切れないものとなった。汁だけに・・・
- 近代・・・フリーズドライやだし入りなど、進化し続けている。

農林水産省 HP より



うるし谷整備

①うるしの苗木植え付け 4名

2022年3月から分根法で育てた苗木22本を植え付けました。分根法からの発芽率はとても高く、ほぼ苗木にする事が出来ました。約3m間隔で植え、イノシシ除けにあんどんで囲いました。これで植え付けた木は、遂に100本を超えました。スクスク育ってえー！

②こぶし川護岸拡幅 3名

一部川幅が30cm近く迄狭くなっており、この状態では大雨が降ると川から水が溢れ出すので、護岸の杭を抜き、土を削って3倍近く迄広げました。

この時期はまだ水が流れているのと、粘土質の為土が重くて苦労しましたが、長さ約6m位は広げられたカナ？と思います。

このように狭い所が他にもあるので、継続してこの作業はあります。

③大木、楠の木伐倒 5名

本日のメインイベント、楠の木の伐倒。

今日までに現場に何回か足を運び、事前に作業もし、周到な準備の上で作業にあたりました。

3株に分かれた大木が2本あります。5名のメンバーは皆精鋭揃い！

高所にロープを掛け、滑車を取り付け、ウインチで引っ張りながらチェーンソーを入れて、倒す方向をコントロールするといった一連のチームワーク、優れたテクニックは本当に素晴らしかったです！

最初の切り口サイズは580mm、その次はそのサイズを超えていました。この様に太くて、20m以上ある大木を倒す、こんな凄い事をやってのける5名のメンバーには、心底感心させられました。大小含めて5本を倒してくれました。

後片付けが終わったのはもう17:00前、遅くまで本当にお疲れさまでした。

何事もなく無事に済んでつくづく良かったと思いました。

おかげさまでまた、うるし谷が明る～くなりました。 (草刈大臣 林 哉也)



寒い冬。げんきの森の落葉樹たちは裸になって休眠中です。でも、彼らにとって寒い季節も必要な時間。例えば、ヤマザクラなどサクラの仲間は花芽に貯め込まれたアブシシン酸という物質が冬の冷気にさらされないと破壊されないのでもうまく花を咲かせることができません。そのため、暖冬の年は花が咲かないこともあります。

冬の寒さもサクラには必要ということです。

一方、私たちげんきの森の活動は冬が本番。汗もかきませんし、ハチやマダニなどのいやな生き物もいません。

サクラ咲く春に向けて、冬の間はせっせと森や歩道を整備して気持ちのいい春を迎えたいものです。 (岡田 和久)